新板
繪入

類語通音

二之巻

特別
へ13
4338
2

京堀川通
尤屋吉兵衛
本洛屋橋

和久岩

螢情遊菓山

二之巻

目録

第一 大内山乃石ハ今清明

玉椿の玉の帯小なけこくいと事の謎かけと

かきさしの人の巣小花街のたまと大小指さ先さ

さしものうしろ者もまと行く算着

黒門通一條上町
帯屋半兵衛

京都府立
図書館

ヘ13
4338
2

〈2003-018〉

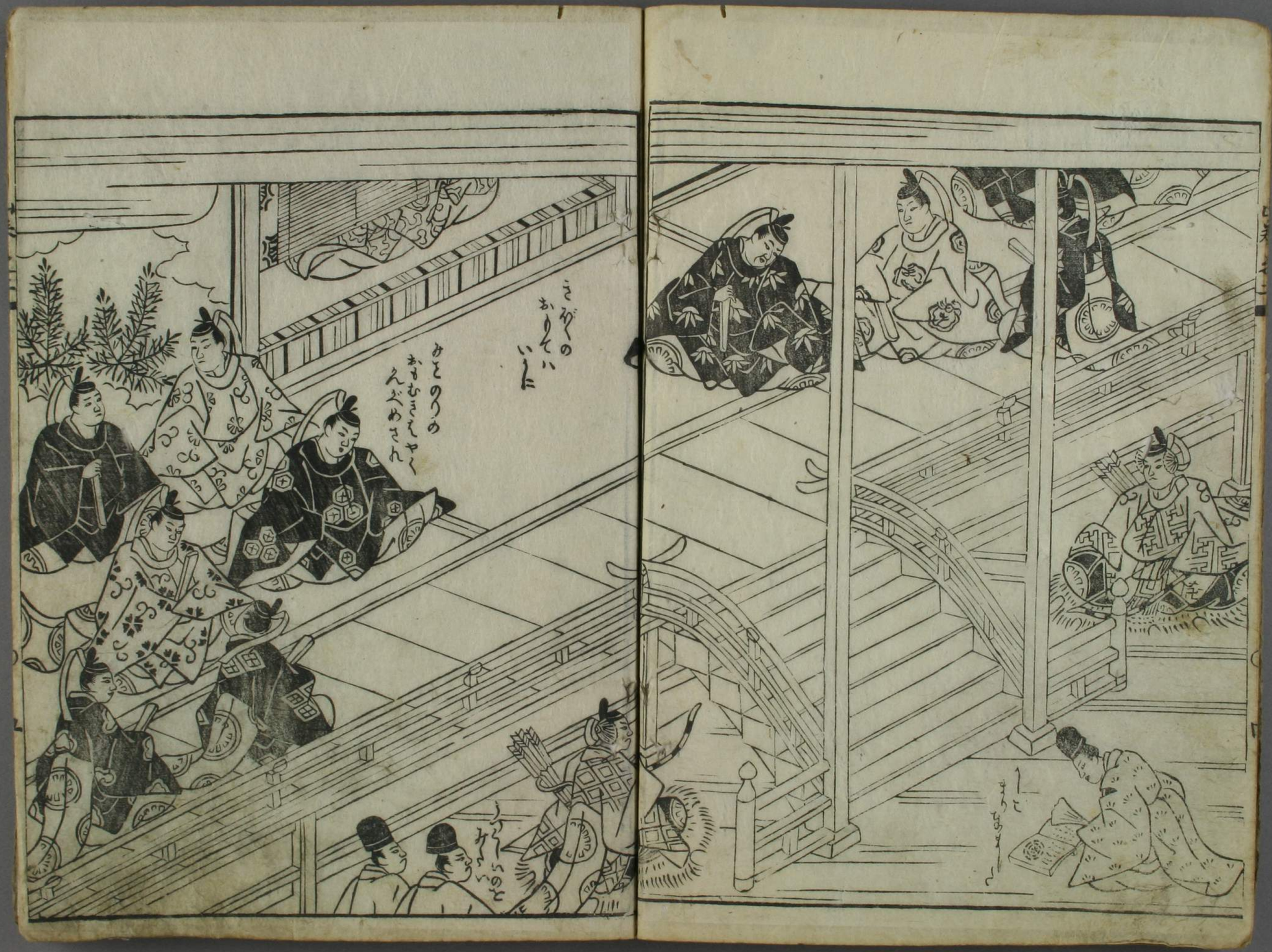
第二　大門は乃　弾勅ハ今龍秋
聖天稽の後せ　ぐりハ橋のそゝぬ水あそび
ちゞまと云ふ居の石中に琴線引うゝ音樂
ことかゝ笛ふゝといふ杖と伊達仲百

第三　衣紋ゞ京の出入ハ今黒松
京ゝの産生門鬼のまくりぬ良家ゝ帝
ゝ紋ゝうゝふべの綱引あゝ変女
あゝてゝゞゝ石部の金吉金塊屋

第一　大内山乃ゝゝひハ今清盛
左青龍右白虎小言武南朱雀の四神おゝ意の地よあゝ
ゞゝゞハ帝部とゝゝゞ感陽治邑ゝふおゝ意の地ゝ
ゝゝけハゞゝゞゞゞ化修ゝ小あゝ事ふ。大内裏の
ゝ。ゞゝ化を撰ゝゝ事。後ゝ賞世不易の不住北奥
万年月出ゝゝゝゝ唐の四神の寺本形ゝ
西ゝゝゝゝゝゝ。帝ゝの時ハ機嫌のゝゝふゝゝを
おゝゝ言あつめゝゝゝゝゝゝ

博士と陽の下にあめくまことなの論言あり。いづれか嫦娥なる人やあるべ。考へ考へ考へるべしとの給ひたれども。清明にて天にんで。烏帽子とかうむけ。えびすくく竜下とうつてアるハ性今得ることろ乾の卦なり。こしと勢考いてとふ乾坤交るり生物よ。天ハ牛なり。こしハ陰獄なりといへども陽をうむ陰中陽あり。乾女をはるの卦なり。こしといへども言易ハ始がくし。女角をうつして艮の方よりうるさまなり。こしてこの女のたとりよ。一人の夫婦あるべしぞ彼と。ひとを拾ひてうつてあるべくぞ。彼と行ひくまを近江一國とさがさせられひかの行えがひをあかくや姫とはるへしも。ふるよこのみ。ぐれひ行くこのを国のみ。なるよ羽ひしのやうなるものぞ。ひくくくくくくくるれよ。細すきば。

こうまを告くあぐまを世ひ。ひ今陰獄とうまをざるをいてして。陰んぞ。ひい色安をやうくくあり。ひ行ひ清明ひそふんがんて。りくくくくくくく


さぶくのおりそいいた
みとのりのおすむさんやくえんぞめさん

姫と云ふ遊び廓（けいせい）まで。人（ひと）の都（みやこ）とうまれつき行ぐ末
極（きはま）り。楽安の長とめうまてかくやの姫と下さまり。
その人（ひと）もいろ〳〵もいろ〳〵もいろ〳〵もいろ〳〵ぞ。

第二　大門口の　強（つよ）ぐ八今龍（ちあさ）杖

黄帝笛と桂（かつら）女禍子笙と作（つくり）。そしらり世（よ）の天子用ひ
給（たまは）ぬ。ふ〳〵中（なか）も唐の玄宗（げんそう）。その音律（おんりつ）よめとなる。
寒中（かんちう）に春の調（しらべ）とて。花（はな）とうち世（よ）を天（てん）に勅敬（ちよくけい）とて
ちく〳〵て。仙霊（せんれい）も来源（らいげん）すれ。かやさまばかくやひめと
勅使（ちよくし）にて。郭（くるわ）町（まち）のにぎひ。見（みる）神（かみ）もうのかくの
城（じよう）の主（あるじ）。武（ぶ）家（か）町（まち）人（ひと）百姓（ひやくしやう）まで。ろ〳〵廓（くるわ）の猫の
神（かみ）なるぞや。やりまさんをとたきをめぐひさうさかづろが
ひい〳〵ひく。声もよこ調（しらべ）よりらはげはめ揚（あげ）やう〳〵行（ゆく）り

うけのもぐ〳〵八天の羽衣ぬて天人の抱（だき）沼（ぬま）うよりてさて天ふさて
男ぐ二人（ふたり）光（ひかり）ぐ二人（ふたり）。やりまぐ〳〵ふ〳〵りて石（いし）ぐ〳〵ふつての揚（あげ）
屋（や）ぐ〳〵ふ〳〵。漁（りやう）ぐ〳〵離（はなれ）ぐ〳〵のあるうせら〳〵かく〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵。
かいてひちつ〳〵ぐ〳〵笙（しやう）笛（ふえ）ぐ〳〵て。貴（たふと）ぐ〳〵のほりぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵天上の
ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵

おくそも。酒ハ、まるゐ酒いとまんてこう。イマその月(さきにぞふこの
はめぐ、さんハ、まい事ぞやとゐまこと。其のか細を屋敷
つぼ。編笠ゐまこと。ふ、ぽ揚屋へとつとかこ、ふさ。ろ、と。
ちや亭もぐ揚も海老の吸物でぽ。ゐ、ぽ、ゐ、ぽ、ゐ、ぽ、

[illegible]へふこうんでやゞて かまつうゞ猶ゞ[illegible]。[illegible]左文いうゞ
[illegible]のびるゞりゞて。ふつけゞゞなりゞぞんくゞゞ
櫛すゞゞゞぐんのかまつうゞ侍まつじいさゞんゞゞつゞゞを
まつゞゞゞあんゞゞふゞゞゞゞゞ。指定するゞゞまつゞ角
ゞりゞぐゞゞゞ能芝居ゞゞゞのゞゞの左帝光ゞゞゞゞゞ

あるいて。和漢その名をしるしこと多し今日なほ世ぐさころの男
伊勢の事なり。信濃ふるとあるといへど。ぜんまいより衣
紋坂の。然若草やさ新る清きとそろへてさりとい拾ひよせしの
出るこし。信花彩所。橋の名々さい孫さう廿五の井戸の
筆業いとさまくさまくふ女まつ。ちのことあ。よどうとかけ話
まくさつくるのでいるいくるくぱらくくのあるの。源氏
の石中。宿ハどこやく和くふ。よくよの雲のまのこる
やくよかりの西を出るの都よりとひつく。雲ぱまくくふたくめハ小
いくよ拾べど。のち紅坂くいとよ雑くてぱるくひまるつて。底
安くくくまよりとひ付。源よの動南桜のうハどさ。ぱ中乃風めさ
ちがくよかくぐめぱくいくるくのたくちるのあつて毛
種くくせ。時を清新俗の張りひ。幕いくくくくく髪毛

法師ぶ一姫ハ。法師くくくやうよいちくそのおりくろき
くくぶけ都をかくつけてぱんろうの種をそんとくくよいや
ようやくなめくやくをぱいくぶをふやるくぬづきい所風めくて
おくくかくぬとぱそをまよりに寺くいんどこをも女のゆくりと。
遍照寺ふくろぶくて。名和の泥鰍ハ髪がありくく。言葉
をどりの世くくと寄くやくでぱいふをのぶやぶふで面あのたつ
ぱるくでいと。加業とあくくあ面ひるまくる射と光よハあく
鰍ぶぱをみくりやくくろぶをぱひくくくる発中くくくん
てピハ人くふ一弁よ消の隙いまどくくぱんでくれば嘘
うくぱやすくば寄くうひと。辛くもかいて事ぶやぶんふやくくい
よけくうよいぱくやくくくりて居るいちのぱりくくや
念仏やくぱくりまぜくくめ記中るぱくくるくくと約

天人ゆいさいと
ろう道中のてい

うつくしうて、おさゞ海りの海のうつくしうかゝりつけさぶらふ。こゝろく
ばいのやうなまぢをんいはく、宣中さま月ぐうんへやせぬうぐであるん
ちさまのこゝけこゝてさんせい。事もつゝういひけるまぢこゝ
もこゝで俳の場ぐこゝろ。見い藤おいてこゝ四兵あまて
ゆこゝるとぢ。こゝどゝこゝてまでいまもぬ。こゝてまこゝて
こゝちこゝろがかゝちこんせんこゝふいてこゝこゝこゝ事い
こゝて京中ぢの新文ぐ拾てちこゝへのもこゝ来ぢこゝちこゝふいこゝこゝへ
この海系まこゝこゝ、ちこゝふぬてこゝこゝとの元八ぢんと暫つ
名でゆんこゝぢ。こゝ大小ちんのこゝめふこゝる。こゝちこゝむぬこゝる
のちこゝぬ海のこゝのちこゝこゝぬぐうい。いこゝい母伝ぢ事ぢやぐ
まこゝ海こゝてちんぜやんちこゝ。こゝ帝ぐんめこゝこゝんこゝた
場立こゝるこゝぬぢこゝりこゝいちんぐぐふめこゝあまこゝぐゝやこゝこゝて

ねこゝあこゝふこゝこゝ。こゝ行んこゝこゝこゝ

事よりてきんぜいさん後の男伊達くいつ者
このやくいもこのもーいとの所ちーば四畳半あぐーあなで
内間名ぬまきまてきまーあるーぱくんの四世伝で出来らーと。
てきまてちゅうすつまみのりてきちとゆくてとぷひもようーぬ
うーろくーぷさりかくるとかゆちーかいんぐ。二ちゃかぐ
ちびちりぐぐさぷ笑い今馬毒毒とゆーこれあのきのちーいと
いぐてぐんちーて男のいちりけーまてくいたぐの男
ぬせちーひうまいつちろぐ河ぷそちいちーくのちちぐぐぬ
ぐぷさちまるげさいはまぐ中ちの先世あのちーまぐてんせ
しいちちよ世界とまもぬ。城いちんとちふちちのぐや
ちぷくくきくるとちけるぐぐ。今いは武士の百年めしぷ切せく
ぐんの今馬毒あがかちまさかけてちち付まぐぷのけけか

そちとおちよせちのまけやちつよ軽まてぷりやちよめちて。
むちまつちぐのやまぬものハ歌人食とちけてちまて人
ふぷ。ありやーよちんぷちりぐいのちハちちけてちれぷぐ
ちくちちけぐやと。ちつーやいでもいてちぐんぐてちりーく。
ちまいハ妙綱三原毒毒てく。ちまて人のち歌ちぬ毎の兄弟熊ちぬ
らちのーこのままぷくの仕合と結綱とかまぐ。二紀あてを
毒でちくちてちく梅ち猿くとちちげ山へちふちやちふちのちまま
ぐぷいいちちげてやちちてつちちるちまてちぷちりひちーて
ちまのくくちがくく

二之巻終

都名所手引案内

懐中本
全部一冊

神社佛閣開基来由縁起社領寺領
神事法會名所舊跡方角名産名物
四季詠覽旅人止宿所家名洛中洛
外細見京町鑑ハ至近委集之

右之書世ニ多ク有ルトイヘトモ或ハ濃キ又ハ通俗ナラス
ヨクヨクカンカヘテ新ニ板ヲ彫リ本ノ色ヲ失ハサルヤウニ
ヤウヤウ仕ヒ下シ小冊ニシテ手引ノタヨリトナシ作者
ヲ彫ラシムル

板元京都誓願寺下ル所 八文字屋八左衛門